

孤立する高齢者

高齢者と学生のシェアハウス

Elderly isolated **Share house of the elderly and students**

杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 半田ゼミ B チーム

萬代晴香, 堤結衣, 大石美琴, 麻生匡弥

指導教員 半田英俊

私たちは「八王子市が抱える課題」についての市議アンケートの結果から高齢化に注目をしました。そこで八王子市には大学が多いのでそれを生かして何かできないかと考えた結果、高齢者と学生のシェアハウスを提案することにしました。まず高齢者と大学生の現状を調べ、それぞれの問題点についても考えました。それらを踏まえ、シェアハウスの概要を考え、シェアハウスをすることで得られるメリットについてまとめました。

1. はじめに

私たちは、タウンニュース社が2016年11月30日から12月7日にかけて現職の八王子市議会委員(市議40人のうち31人が回答)に対し「八王子市が抱える課題」についてアンケート調査を行った結果に基づき、多く回答されていた少子高齢化に注目しました。

2. 現状

はじめに高齢者の現状です。

八王子市の高齢者人口は昭和64年から平成25年までの25年間で87,729人増加しています。

また高齢者世帯数も年々数が増えており、高齢者世帯数に占める高齢者単身世帯数の割合が高くなっていることもわかりました。

八王子・南大沢・高尾警察署の資料によれば、167件の孤独死のうち111件が65歳以上の方で、全体の3分の2を高齢者が占めている現状です。

次に学生の現状です。

八王子市内には21の大学・短期大学・高专があり、約100,000人の学生が八王子市で学んでおり、全国でも有数の学園都市だと言えます。そして、日野市にある明星大学、町田市にある法政大学は所在地は市外ですが、八王子市とまたがって立地しています。また、町田市にある東京家政大学・サレジオ工業高等専門学校・桜美林大学、多摩市にある多摩大学も市外に所在していますが、大学コンソーシアム八王子加盟校として、八王子市と連携しています。

このように、八王子市には大学が多く集まっているため、一人暮らしの学生が多いと仮定できます。平成26年度学生生活調査(JASSO)より、大学生の移住形態を調査したところ、自宅に住んでいる学生が56.49%ではありますが、アパートや学寮で一人暮らしをしている学生が半分程、占めています。また、大学が多く集まる八王子市には一人暮らしをしている学生も多いことが予想されます。

そこで、一人暮らしの高齢者の方に問題点はないかを調査したところ、重労働が大変、不安・寂しさがある、機械に弱い、孤独死の不安があるなどが多く挙げられました。そこで、学生の一人暮らしの問題点を考えたところ、生活リズムの乱れ、家賃が高い、家事が大変、不安や寂しさなどの問題点が挙げられました。学生が一人暮らしをする上で、様々な苦労があることが分かります。

3. 提案

そこで、以下の四つを備え、老人と学生のシェアハウスを提案します。シェアハウスを行うに当たって、一つ目に学生の家賃を低価格に設定します。これにより、家賃の負担が減った分、他の事にお金を使うことが可能になります。二つ目に個人部屋と共有スペースの確保です。個人部屋で、プライベートの空間を確保し、その他を共有スペースにすることで交流の場を作ります。三つ目に週に二回は一緒に食事をするということです。一緒に住んでいるだけで交流をしないとすると、シェアハウスの意味がなくなってしまうため週二回の食事を義務付けます。四つ目に、家事は分担をし、力仕事は学生が担うことです。家事は学生と老人が分担することで、どちらか片方だけに偏った負担がかからなくなると考えました。に設定します。これにより、家賃の負担が減った分、他の事にお金を使うことが可能になります。二つ目に個人部屋と共有スペースの確保です。個人部屋で、プライベートの空間を確保し、その他を共有スペースにすることで交流の場を作ります。三つ目に週に二回は一緒に食事をするということです。一緒に住んでいるだけで交流をしないとすると、シェアハウスの意味がなくなってしまうため週二回の食事を義務付けます。四つ目に、家事は分担をし、力仕事は学生が担うことです。家事は学生と老人が分担することで、どちらか片方だけに偏った負担がかからなくなると考えました。

4. まとめ

私たちはこれから「学生と高齢者のシェアハウス」の実用化に向けて、企業提携など、さらに研究を深めていき、八王子市の高齢者、学生がもっと住みやすい市になることを目標にしたいと考えています。